

第七節 齟齬過失其他將來ノ參考トナルベキ事項
一 部隊間ノ連絡ニ就テ

ノ本作戰間部隊間ノ連絡ニ就テハ各級指揮官及命令受領者ニ於テ相當ニ努力セルモ尚十分ト稱シ難ク或ハ行軍間ニ於テ前後ノ連絡ヲ失シ或ハ戰鬥間ニ於テ當面ノ敵情ニ關スル連絡ノ着意ヲ缺キ或ハ命令ヲ誤達セル等ノコトアリ要務令第一部第十五ノ實行ニ就テハ尚一層訓練ノ要アルモノト認ム

2. 縱隊分進ノ場合ニ於テ無線手ハ常ニ正確ナル時間ヲ規正シ之ニ依リ連絡ヲ確保スルヲ要ス

馬抗鎮ニ向ヒ前進中五號無線不通トナリシヲ以テ後刻調査ノ結果器材ニ異状ナク距離モ通信距離以内ナリシモ無線手ノ時計二十分ノ時差アリテ兩縱隊共行進中

ナルヲ以テ交信時間十五分ト連絡打合セタルニ二十分ノ時差
ニ依リ齟齬ヲ來タセルモノナリ

二 山岳地帯ノ作戰行動ニ於ケル工兵ノ配屬ニ就テ

大岳山中ノ難道通過中屢々道路ノ破壞阻絶ニ會シ又ハ石
石等ノ爲修築セザレハ駄馬ノ通過不可能ナル所多カリキ
將來支隊編成ノ場合成シ得レバ若干ノ工兵ヲ配屬スルヲ
必要トス

三 彈藥携行數ト其使用節約ニ就テ

本作戰間彈藥ノ携行數ハ部隊ニ依リテ若干異レルモ概ネ小銃
各人一八〇輕機一銃八〇。重機一銃三六〇。大隊砲四〇山砲
二〇〇ナリシガ双峰鎮附近ノ戰鬥ニ於テハ交戰時間三十六時
間ニ對シ山砲が五〇發ヲ殘セル外殆ド射料シ盡セリ。就中
大隊砲ノ如キハ戰鬥開始後八時間ニシテ殘彈ナキニ至レリ
小銃彈藥ハ死傷者及馭兵等ノ分ヲ蒐收セシニ拘ラズ是亦
缺乏ヲ瀕シ第十一中隊輕機關銃分隊ヨリ彈藥補充ノ

爲支隊本部ニ來レル彈藥手ノ如キハ辛ウジテ蒐收交付
セラレタル小銃彈五〇發ヲ落後シツツ押戴キテ歸隊
セリ又彈藥缺乏ノ爲機關銃主力ノ位置ニ於テ石合
戰ヲ演ジタルコト前述ノ如シ
是ニ由テ觀ルトキハ將來交通不便ナル地域ノ作戰行動ニ
ハ成ルヘク多量ノ彈藥ヲ携行シ且其ノ使用ニ就テモ中小
隊長ニ於テ克ク戰術的ニ要否緩急ヲ考慮判定シ節約
ニ努ムルヲ要ス

備考

當支隊ニ屬スル兵ハ第三十師團出身(東北地方)者ニシテ從來
彈藥使用量ノ少ナキヲ誇トセリ然ルニ今回ノ戰鬥ニ於テハ敵
カ兵力甚シク優勢ニシテ且亂射セシ爲我モ亦比較的多數
ノ彈藥ヲ使用セシモノナリ

四、手榴彈ヲ携行スル場合ニ於テハ行軍間ト雖モ屢々安全檢
ノ點檢及螺子ノ状態ニ注視シ不發彈及事故ノ豫防ニ努ム
ルヲ要ス

五、敵彈下ニ於テモ、努力ノテ工事ヲ實施スベキハ原則ノ示ス處ナルガ
双峰鎮附近ノ戦闘ニ於テ楠高地(附圖第九參照)ノ占領確保
ヲ命ゼラレタル長以下十二名ハ敵猛射ノ下ニ於テ一意工事ヲ
實施セルニ依リ夜間數十倍ノ敵ヨリ攻撃ヲ受ケタルモ一名ノ
負傷者ヲモ出サズ該高地ヲ確保シ得タリ

六、本作戦間ノ行動地域ノ如ク道路不良ナル山岳地帯ニ於テ索
敵燼滅ヲ同時ニ實施スル場合ニ於テハ一日ノ行軍行程ハ五里
ヲ超エガルヲ適當トス然ラサレバ單ニ道路ニ面シタル村落ヲ燼滅
シ得ルノミナリ

備考

實距離六圖上距離ニノ子ヲ加ヘタルモノニ相當シ且支那家屋ハ隣家ニ延
燒スルコト稀ナルヲ以テ燒却ニ長時間ヲ要ス